

牧師所感：亡き母親の遺訓を守り続けるキリスト者 — 株式会社永明 代表取締役 吳永錫長老 —

冒頭の吳永錫長老は在日大韓基督教東京希望キリスト教会の名誉長老である。キリスト者である吳永錫長老が、日本人のキリスト教信徒から広く知られ、同時に非キリスト者からも広く知られているその理由は、日本の社会の繁栄と発展に力を尽くして参与していることが認められているからであると信ずる。というのは、吳長老は、「妻家房」という韓国料理店を経営して、税金を新宿区内では一番断トツに高く納めていると聞く。ところで筆者が思うには、キリスト者として事業を起こして、その経営に成功しているからだと思う。その事業とは、株式会社永明の代表取締役として、先程紹介した「妻家房」（レストラン）を全国に立ち上げたからだ。「妻家房」という名聲が日本全国の多くの人々に知れ渡っているからだと筆者は思う。以上が日本社会に於いて生き残る知恵である。

次は在日の韓国社会へ深く関与しなければならない。吳長老は、在日居留民団に籍を置き、民団員とも積極的に協力し、同胞の生業の繁栄に物心両面で協力した。ところで最近その活躍が認められて大韓居留民団東京本部の団長に選ばれた。そして吳長老は日本と韓国の友好の為に飯食文化交流に努めている。日本の伝統食文化を韓国に、韓国の伝統食文化を日本にと、交流させるに成功している。

さて冒頭で紹介した母親の遺訓に戻ろう。母親の遺訓は、吳長老が幼い時から教えられて実践してきた教訓であって、今に至るまで忠実に守ってきた教訓である。

その教訓とは、1. 教会に日曜礼拝に出席したら、一番前の席に座ること。その2. は十一献金を忠実に捧げよ。3. は牧師を敬うことを、教えられたと。今に至るまで母堂様の遺訓を良く守って実行している長老様であることを証言する。

なお筆者が心込めて証言することは、同胞の子弟に奨学金援助、牧師に対してお米を何十年も毎月贈ってもらっていることを証言する。

おわりに、ますます健康に留意して主の福音を宣べ伝えて下さい。主によって、アーメン。

